令和２年10月23日
教 育 課 程 部 会
資料２

探究的な学習の質を高める「協働的な学び」

2020/10/23

國學院大學人間開発学部初等教育学科教授
文部科学省初等中等教育局視学委員
田村　学

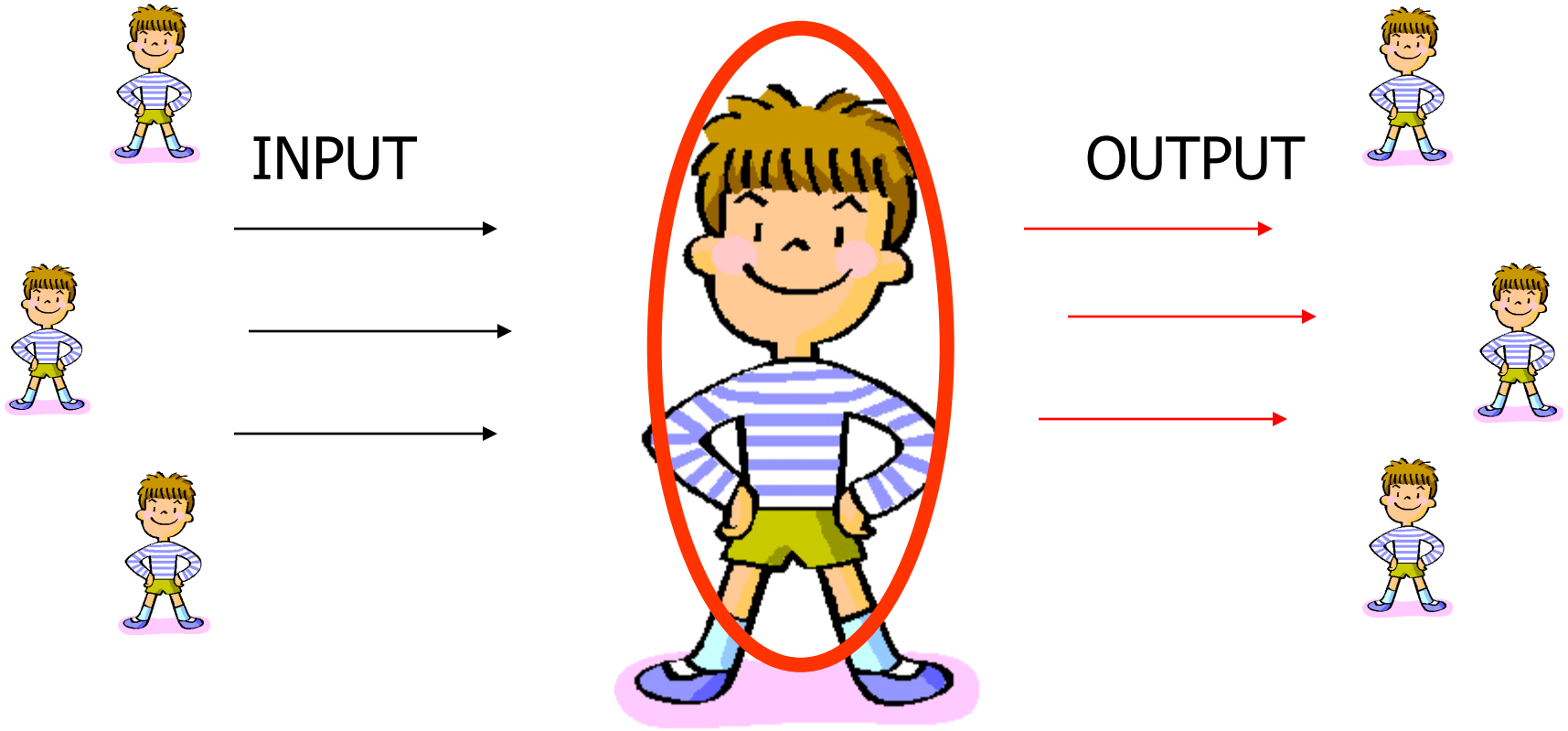
１．発達を超えた「協働的な学び」

■年齢や発達を超えて、子供は協働的に学んでいる。

２．教科を超えた「協働的な学び」

■教科・科目等を超えて、子供は協働的に学んでいる。

A:内化する → B:外化する



言語活動の充実 平成20年学習指導要領改訂

① 体験から感じ取ったことを表現する
② 事実を正確に理解し伝達する
③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
④ 情報を分析・評価し、論述する
⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

言語活動を通じた授業改善

知識の習得のみならず、思考力・判断力・表現力等や、主体性を持って多様な人々と協働する態度を養う。

子供が学習の見通しを立て、主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組み、学習したことを振り返る活動が重要。

（例）「言語活動」を通じた授業改善

ペアで意見を交換する

例えば、一斉授業だけではなく・・・

ホワイトボードを使って話し合う

付箋を使って話し合う

例えば、先生が説明するだけではなく・・・

生徒が説明する

立場を決めて議論する

ポスターなどを作成して発表する

主体的・対話的で深い学びの実現
（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

【例】
- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力・人間性**等の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる**思考力・判断力・表現力**等の育成

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【例】
- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る

【深い学び】

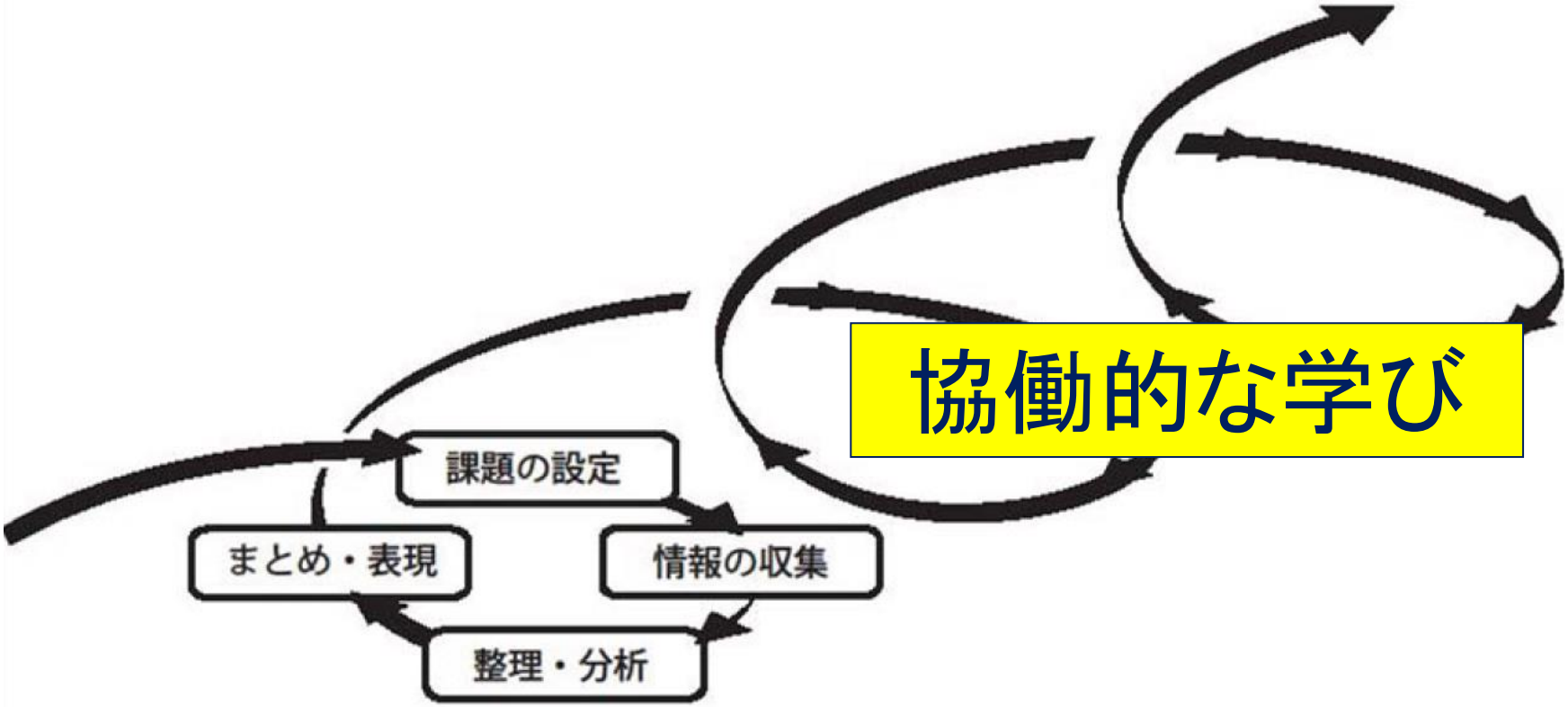
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

【例】
- 事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

３．探究を高める「協働的な学び」

■異なる多様な他者と協働して、主体的に課題を解決することで、探究的な学習の質を高め、実際の社会で活用できる資質･能力を育成していく。

総合的な学習の時間における
探究的な学習における児童・生徒の学習の姿



■ 日常生活や社会に目を向け，児童・生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。
① 課題の設定
② 情報の収集
③ 整理・分析
④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され，探究の過程が繰り返される

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」から

総合的な学習の時間　平成29年学習指導要領改訂

学習指導要領解説第7章第3節の２

「他者と協働し主体的に取り組む学習活動にすること」

①　多様な情報を活用して協働的に学ぶ

多様で多量な情報を収集することは、その後の情報の整理や分析を質的に高める。

②　異なる視点から考え協働的に学ぶ

異なる視点や考えを基にして検討していくことで、事象への認識が深まり、さらなる探究的な学習へとつながり、互いのよさや可能性を尊重し合う。

③　力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ

相手意識や仲間意識を基に共に学び行動する中で、個の学習の質とともに集団の学習の質を高め、社会参画の意識も育成する。

④　主体的かつ協働的に学ぶ

主体的に学ぶことと協働的に学ぶことをバランスよく行い、そのよさを実感することで、探究的な学習が持続し発展するとともに、自分の考えに対する自信と確信をもつ。

（平成29年小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編　）

総合的な学習の時間 「協働的な学び」

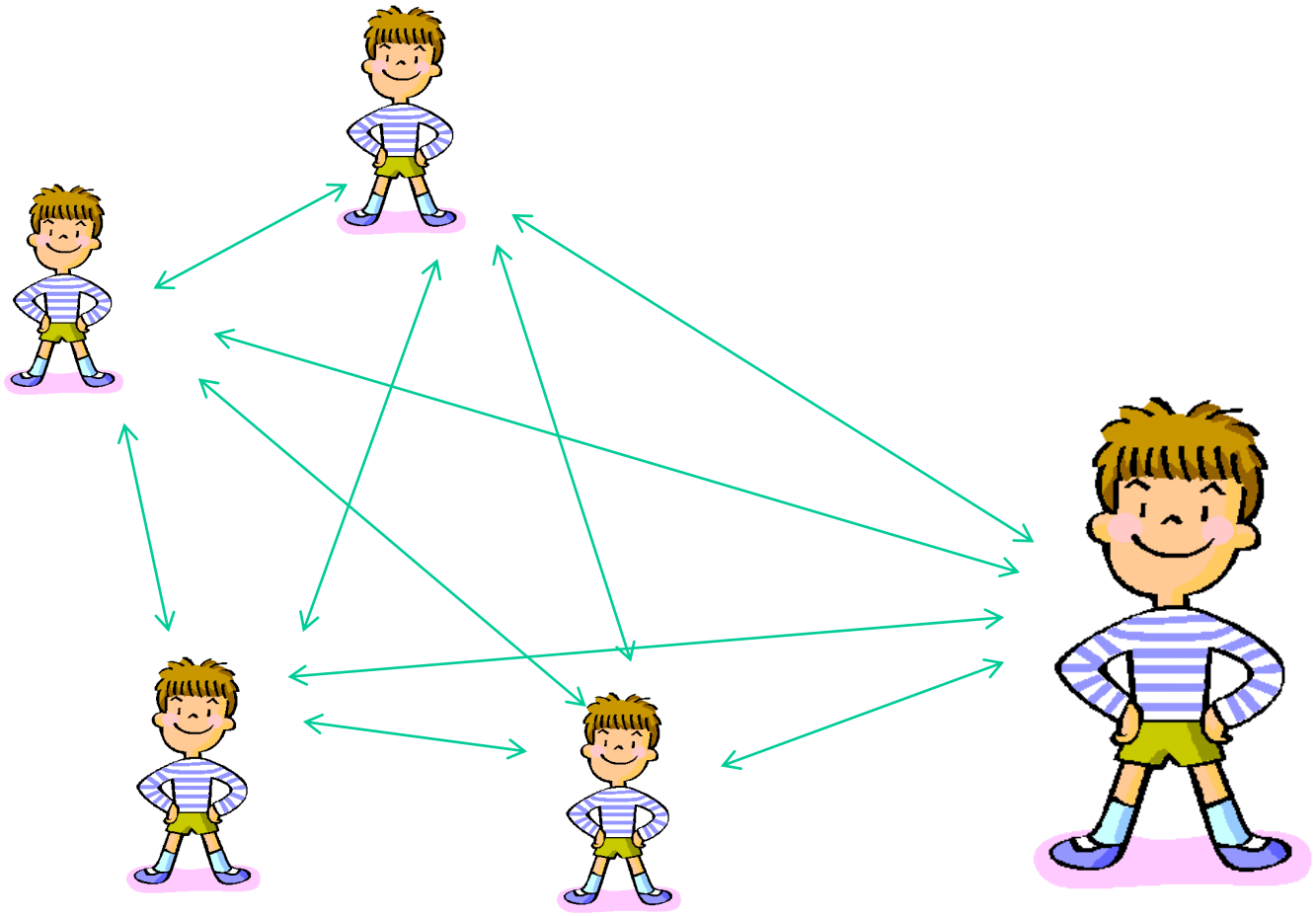
第7章第3節の２
「他者と協働し主体的に取り組む学習活動にすること」における
「協働的な学び」の価値分析の視点

■認知面
①異なる情報やたくさんの情報を入手する
②表現することで自らの認識を再構成し構造化する
③情報を提供し合い、関連付けて、知を創出する　など

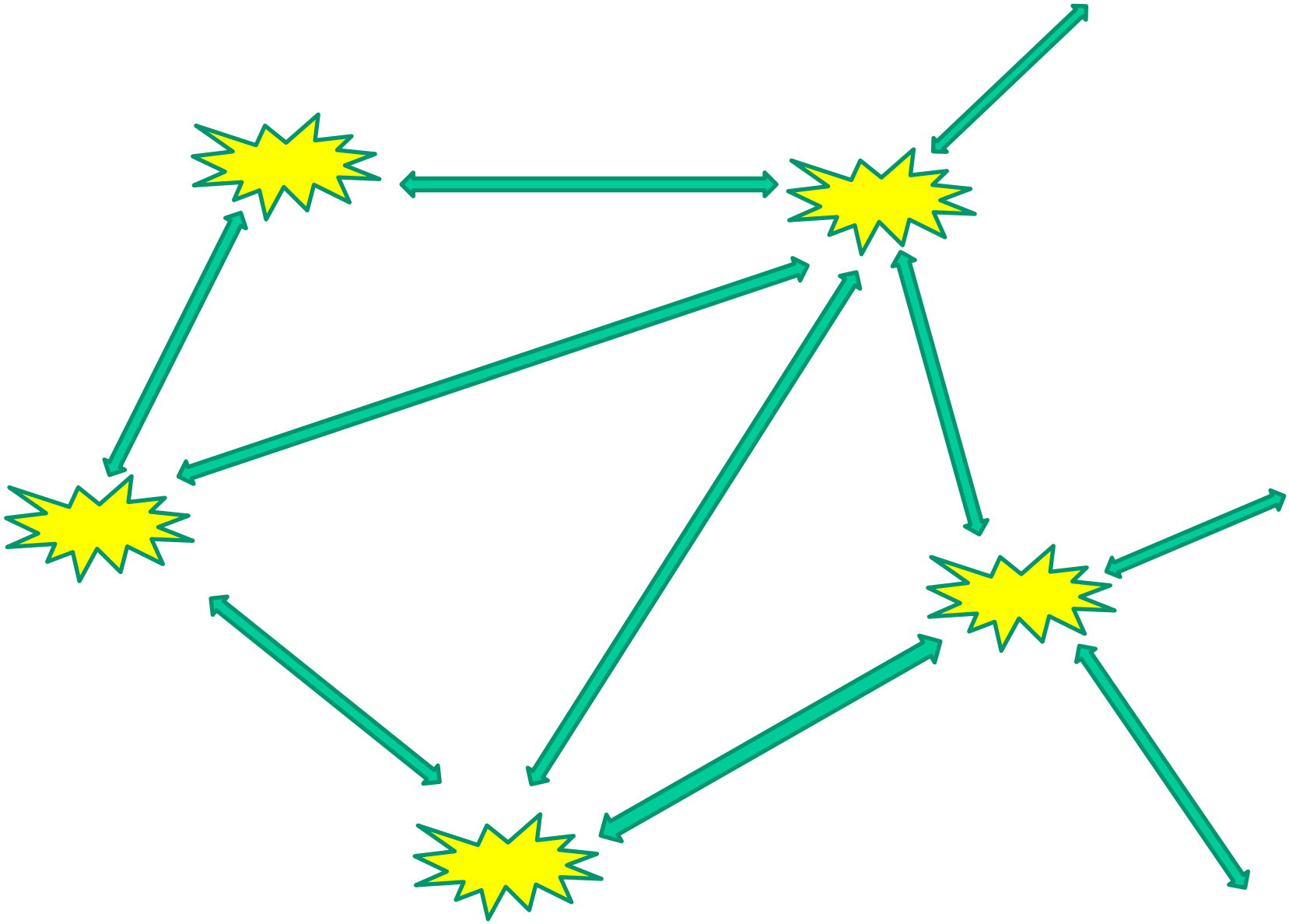
■態度面
①異なること、多様であることの価値を実感する
②関わり合い、力を合わせることの価値を実感する
③開かれていること、共有することの価値を実感する　など

■活動面
①交流し、頻繁にコミュニケーションを行う活動を行う
②協力し、ゴールに向かって取り組む活動を行う
③様々な人と関わり、力を合わせて活動を行う
④地域や社会と関わり、参画する活動を行う　など

協働的な学び



■情報の受信（INPUT）
■情報の発信（OUTPUT）
■情報の再構成（PROCESS）



知のネットワーク化（精緻化）→活用的　安定的

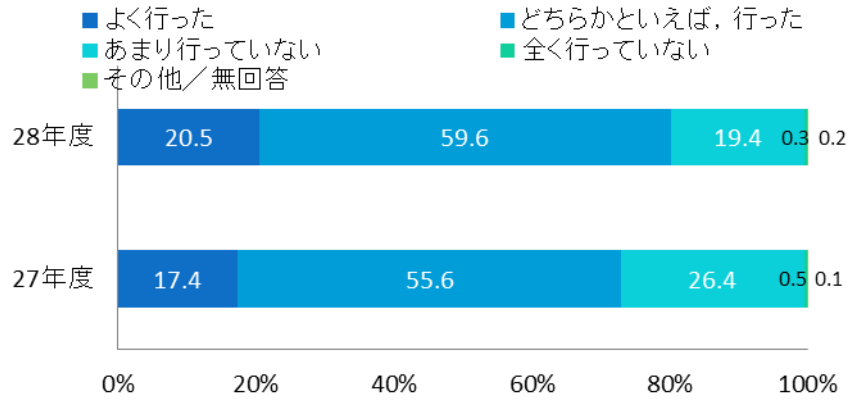
「協働的な学び」と学力の関係

―平成28年度全国学力・学習状況調査の結果から―

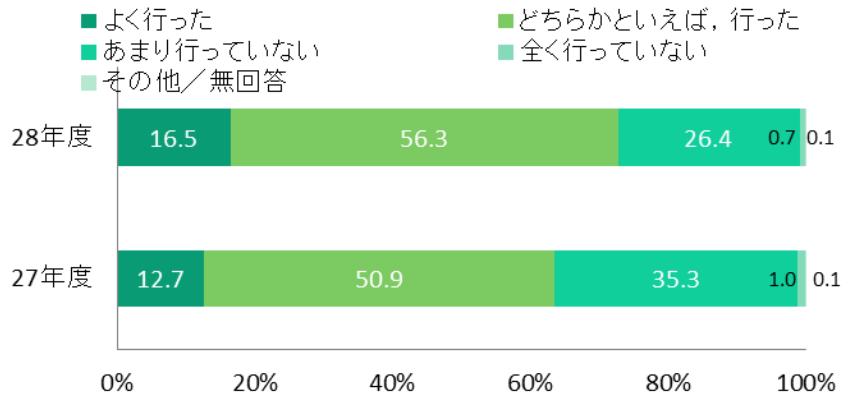
◆授業において，児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し，その解決に向けて話し合い，まとめ，表現するなどの学習活動の取組を行っている学校の方が，平均正答率が高い傾向にある。

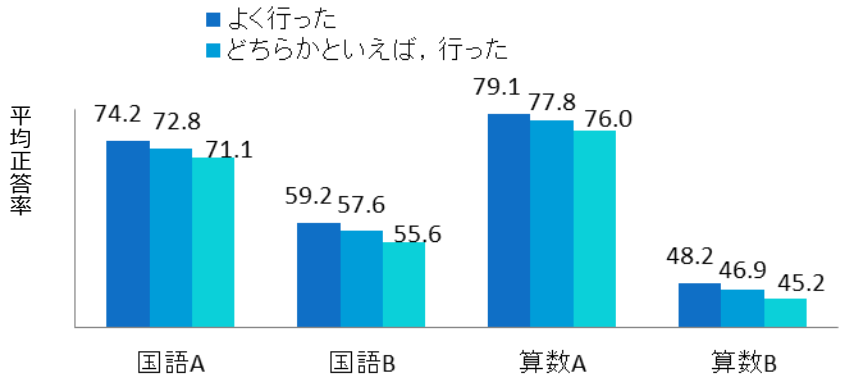
【学校質問項目】
前年度までに，授業において，児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し，その解決に向けて話し合い，まとめ，表現するなどの学習活動を取り入れましたか。

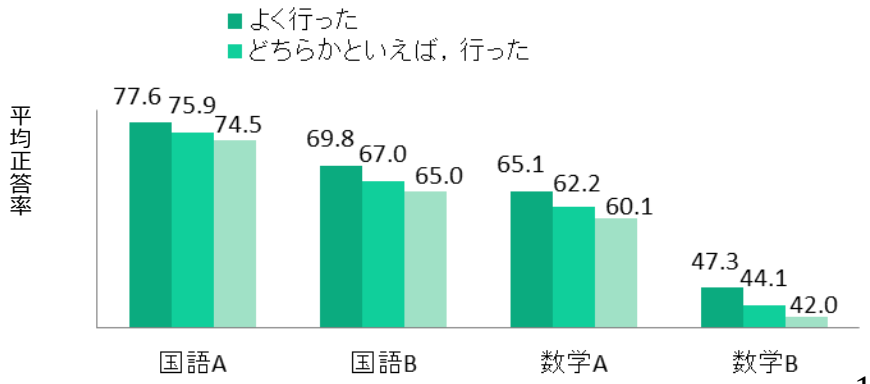
【小学校】



【中学校】







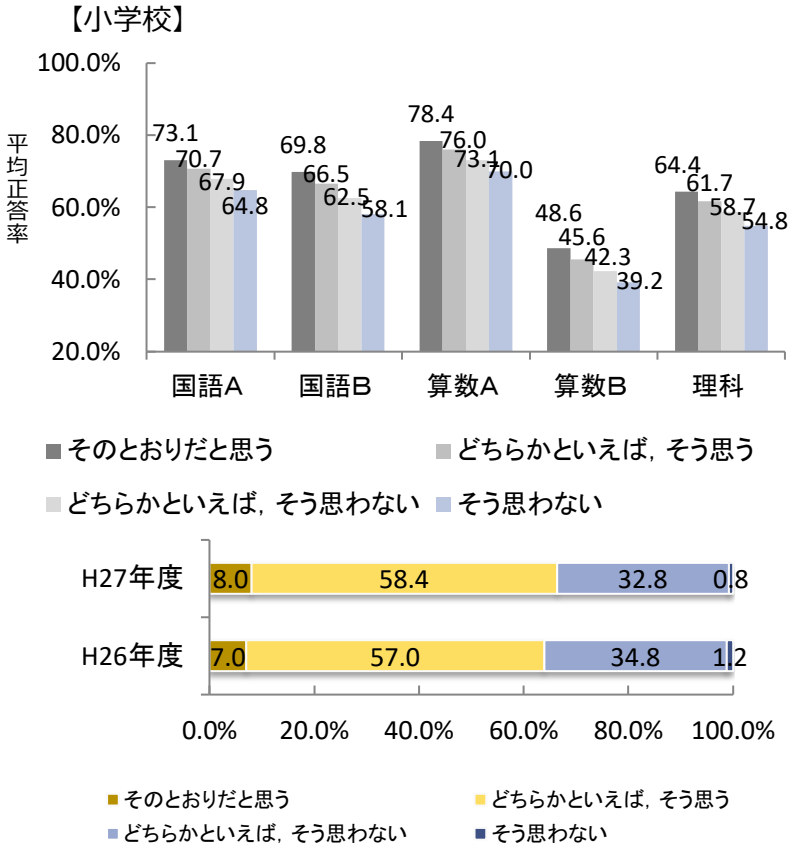
※「全く行っていない」と回答した学校が100校未満のため，「あまり行っていない」と合算

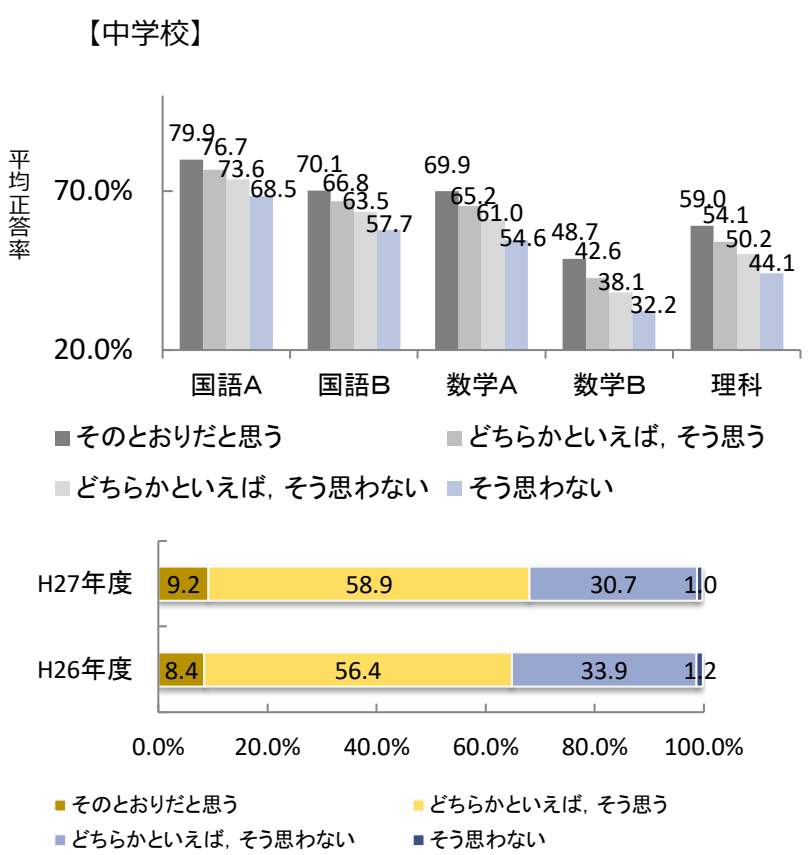
（出典）文部科学省・国立教育政策研究所「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」

「協働的な学び」と学力の関係
―平成27年度全国学力・学習状況調査の結果から―

◆「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」について、肯定的回答の方が平均正答率が高い状況であった。

【質問項目】
調査対象学年の児童生徒は，学級やグループでの話合いなどの活動で，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか。

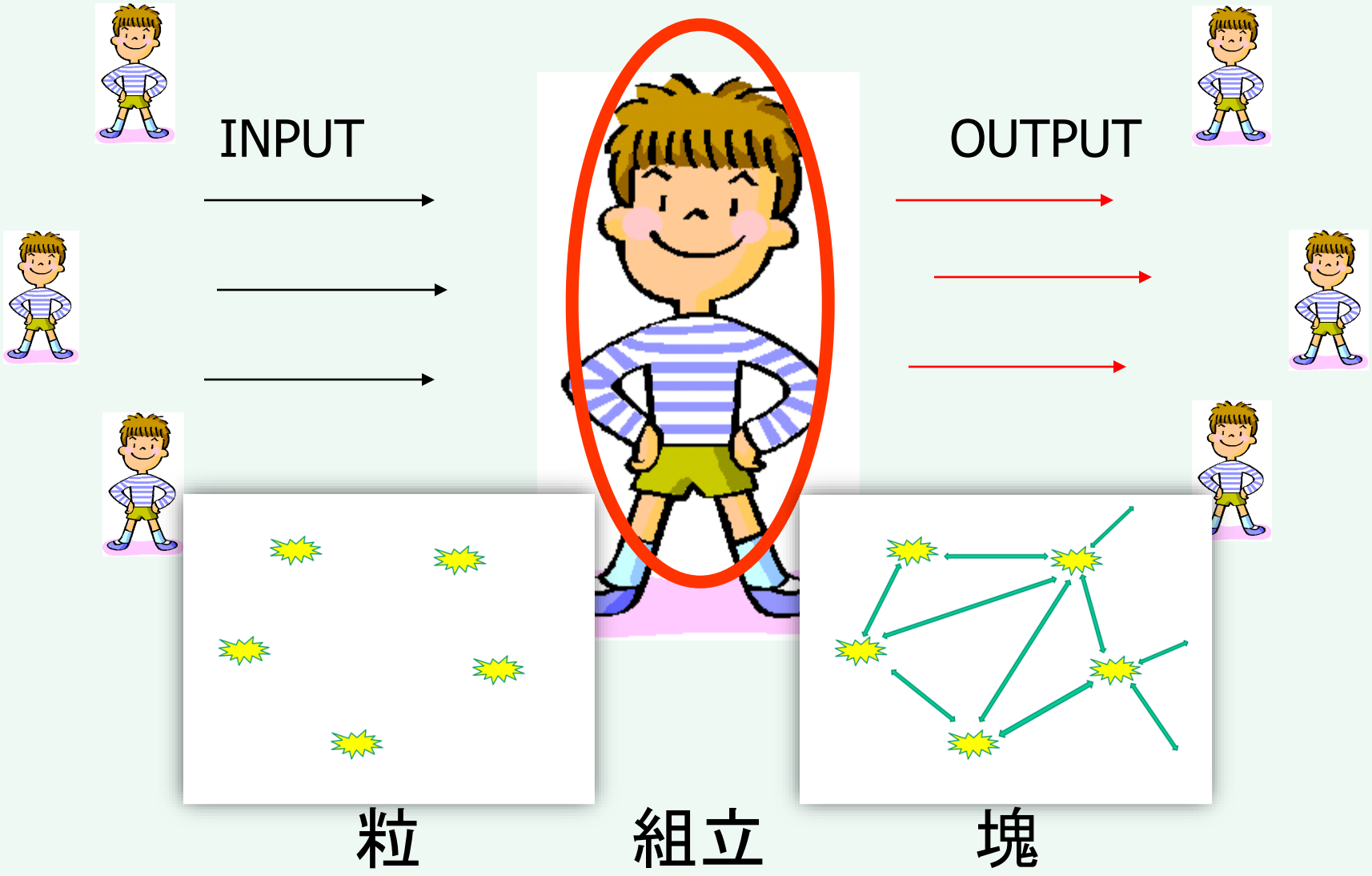




※選択肢毎の平均正答率は，選択肢の回答数が100校未満のものについては，一つ前の選択肢の回答とまとめて算出

（出典）文部科学省・国立教育政策研究所「平成27年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」

A:内化する → B:外化する



４.「個別最適な学び」と「協働的な学び」

■学校を中核として、子供の学びは時間と空間を超えて広がり、個の学びと集団の学びは往還しながら、一人一人の子供にとって最適な学びが実現される。

資質･能力の育成に向けて期待される学び

能動的な学習の文脈

「主体的・対話的で深い学び」

〇主体的な学び
・問い、見通し、振り返りなどを行う
〇対話的な学び
・先哲、友達、教職員、地域の人と対話する
〇深い学び
・知識が関連付いて深い理解になる
↑
■授業改善
■カリキュラム･マネジメント

学校を基盤とした教育課程と学習指導

一人一人に応じた学習の文脈

「個別最適な学びと協働的な学び」

〇個別最適な学び（個に応じた指導）
・指導の個別化
（習得的、効果的な指導や柔軟な設定を行う）
・学習の個性化
（探究的、主体的に学習を最適化する）
〇協働的な学び
・異なる多様な他者との学び合い
↑
■授業改善
■カリキュラム･マネジメント

学校を中核とした教育課程と学習指導

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの実現～（中間まとめ）」平成2年10月7日を参考に田村が分析

総合的な学習（探究）の時間におけるICTの活用（新たな学びの実現）

総合的な学習（探究）の時間では、実社会・実生活上の課題の解決に向けて、問題解決的な活動が発展的に繰り返される**探究的な学習**が行われる。そこでは、学校内外の多様な学びが展開され、両者は相互に作用しながら探究的な学習の質が高まっていく。**一人一人の児童が情報端末を持ち**、ICTを活用することで、**探究的な学習は学校から家庭、地域へと豊かに広がっていくことが期待**できる。その際、**オンラインを活用する**ことで、**時間と空間を超えた新たな学び**が実現される。

■学校内外におけるこれまでの学習活動

【アナログデータ中心】「シートやしおりへの記述」「書籍等からの情報収集」「壁新聞や発表会等アナログ的な表現」 → 対象や場、時間の壁を超えられない。

【限られたICT環境】「ICT端末を共同使用」「利用場所が限定的」 → データアクセスできる時間や場所の制限から結局はアナログ化。使いたい時に自由に使えない。

■社会教育施設との接続

公立図書館等におけるオンラインを活用した電子書籍サービスを利用して、専門的な情報を確実に収集する。

○○図書館

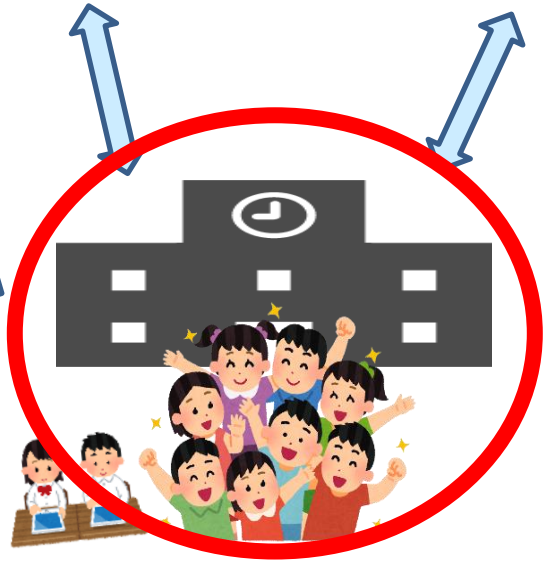
電子書籍

自宅のパソコン、タブレットから24時間利用可能！

1	日本の民話	7	マンガでわかる日本の歴史
2	昆虫大図鑑	8	マンガでわかる電気のひみつ

■家庭との接続

一人一人の課題を家庭で調査する。収集した情報を端末で分析し、自らの考えをまとめていく。学校と家庭、子ども同士がオンラインで結び付き、学びは時間と空間を超えて大きく広がっていく。



■専門家等との接続

オンラインを使うことで、学校では関わることのできない専門家との情報収集や交流を行う。必要に応じて国内外の人材とつながり一人一人が新たな学びを展開していく。

■地域との接続

地域に広がる調査フィールドで、ICTを活用した情報収集を行う。情報は動画、静止画のほか、マップなどの位置情報、数値化されるものなど多様で多量になる。また、即座に情報をオンラインで集積、交流していく。

画像出典：「ICTを活用した指導方法」 文部科学省

総合的な学習（探究）の時間におけるICTの活用（個と集団の学びの深まり）

総合的な学習（探究）の時間では、**探究的な学習が行われると共に、そこでは協働的な学習が期待**されている。一人一人が情報端末を持ち、**自らの探究的な学習の履歴を自ら集積し、集積した情報を構造化したり再構成したりすることで、個において深い学びが実現**する。また、ICTを活用して、**手軽に瞬時にデータを交流し、協働することで集団においても深い学びが期待**できる。

■「個の学び」での活用

探究的な学習を繰り返す中で、一人一人が収集した多様で多量なデジタルデータ等を端末に長期に渡って集積。

収集した情報を検索や分析など、再構成し、時間軸や空間軸に沿って俯瞰することが可能。

■「個の学び」の深まり

個々の探究的な学習が連続し、より深い学びを実現。

自らの学びが、持続的で自覚的になり、一人一人の知識の習得や活用を促進。

（例）地域の河川の環境問題を探究

・「身近な川の自然環境に何が起こっているのか」という共通の課題を設定
・グループごとに、「透明度調査」「生息する生物調査」「昔の川に関する取材」などの視点で情報収集
・調査結果を整理・分析して中間報告会を開催

個の探究を支える

・透明度調査や生物調査で、**GPSマップ上に示される位置情報と、観察・計測した画像や数値データをその場で記録・アップロード**
・取材活動では、**インタビュー内容や展示物などを、繰り返し再現可能なデジタルデータで保存**し、確認や編集作業に生かす　等

個に応じた独自性、多様性、関連性のある知識が確かに習得されていく。

集団の探究を支える

・収集した川の情報を**クラウドや校内サーバー等に集積し、グループを超えて共有**
・**川の透明度を生息生物と関連付けて分析**したり、**調査地点の様子を取材で得られた10年前の写真や話と対応**させて捉えたりしていく　等

共通の課題の解決に向け、協働的な学習の中で、情報の構造化や再構成が行われていく。

■「集団の学び」での活用

課題の解決に向けて個々が収集したデジタルデータを等をクラウドなどを利用して集団内で共有する。

このことで質的にも量的にも豊かな情報を蓄積することにつながる。

■「集団の学び」の深まり

異なる視点でのデータの整理・分析等により、集団としての新たな知が生まれ、より深い協働的な学びを実現。

「個の学び」と「集団の学び」の往還

課題の解決に向けて、個の学びと集団の学びは、相互に影響し合って高まっていくとともに、時間や空間を超え、多様な考え方の中で新たな知を生成できることを体験することを通して、協働的に問題解決をすることのよさを実感していく。

画像出典：「ICTを活用した指導方法」 文部科学省

学校での学びの特質と教師の専門性

■学校という社会資本の価値

資質･能力の育成と共に、実社会の課題を他者と協働して解決することを学ぶことで、未来社会を創造する主体としての自覚を促す。

■学校や教師への期待

①教育課程の編成

学校では、教師が意図的で計画的なカリキュラムを編成し、資質･能力を意図的で組織的に育成する。

②専門的かつ多様な指導性

教師の高度で幅広い指導により、子供の資質･能力を確実かつ効率的に育成する。

③学び合う仲間の存在

学校には、力を合わせたり、交流したりして、課題を解決し目標の実現に向かっていく仲間が存在し、そのよさを実感する。